

◎勝利の経典『御書』に学ぶ 阿仏房御書

まさしく、御本尊を持ち、題目を唱え、仏法を弘めゆく人の「すがた」は、妙法の当体として、瞬間瞬間、輝いていく。喜怒哀楽も露わな凡夫がそのままで「尊極の宝塔」と現れるのです。

苦悩に満ちた現実の中で、心ない悪口にも負けず、自身の宿命転換のために、そして人々の幸福のために、尊き金の汗を流しながら戦い抜いている、学会員の「すがた」こそ、まさしく宝塔にほかなりません。

(『勝利の経典「御書」に学ぶ 10』65 ページ)

◎世界を照らす太陽の仏法 第 42 回

あの地にも、この地にも、生命尊厳の証しである宝塔を林立させることが、最も確実にして根源的な平和への直道なのです。

(中略)

自らの尊厳性に目覚めた一人が、新たな一人の生命に宝塔を打ち立てゆく、私どもの菩薩行のような運動を、世界は今、最も深く求めていると言っても過言ではありません。

(「大白蓮華 2018 年 10 月号」36 ページ)